

<基本情報>

所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村

（平成29年度熊本県農業コンクール 優秀賞（地域農力部門）受賞）

<農場概要>

- 自然農法による米（酒造好適米）作りに取組む生産者任意団体
- 令和元年産は16名で山田錦6haを栽培
- 全国の酒造メーカーに出荷し、醸造した酒は阿蘇でも販売



<有機農業に取組むきっかけ>

- 代表（高島和子氏）は、南阿蘇村に移住し自然農法による山田錦の栽培に取組むが醸造に必要な量が確保できず、村内で栽培賛同者を募り、平成19年（2007年）にくらぶを発足。
- 南阿蘇が特別栽培の取組農家が多かったこと、**自然農法への栽培転換による収量減少が少なかった**ことが、賛同者の継続栽培への意欲に繋がる。

<契約・販売について>

- 全量買上げや醸造した酒の地元販売を条件に蔵元と契約。米の販売価格は、会員全員による合同検見の結果に基づき、生産者（会員）ごとに個別に契約。
- 実需者から「**碎米が少なく歩留まりが高い。作柄の影響を受けにくい安定した品質。**」と高評価。好条件での取引を実現。
- 肥料・農薬等の生産資材の購入費が抑えられ、慣行栽培と比較して利益を実感できる。



【お問合せ先】南阿蘇村役場農政課 有機農業推進班
TEL.0967-67-1111

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
無農薬栽培により圃場内に害虫を退治する天敵が生息。
- 雑草対策
除草機（手押し式、動力式）を使った除草。
- 土づくり
収穫後の稲わらを裁断し、土壌に還元。苗箱には土とくん炭のみを使用し、圃場には有機質肥料を含め、肥料を投入しない。

<栽培上の工夫等>

- 強く美しい稲姿を目指し、7月中旬を目安に強めの中干しを行うことで、台風等による倒伏被害も軽微となり、粒ぞろいのいい米が生産できる。

<現場の課題>

- 除草作業を中心に重労働が多く、後継者が育ちにくい。

<今後の対応>

- 自然農法による酒米の高品質な価値を理解してもらえる実需者を掘り起こし、高級酒用原料としての高価格販売を拡大。
- 自然農法に取組む後継生産者の育成及び技術支援。



<基本情報>

所在地：熊本県合志市

<農場概要>

- イタリア、フランス及び日本の季節野菜を自然農法で栽培。
- 経営面積2.7ha（うち水稲0.4ha、野菜2.3ha）
- レストランへの契約・自社農園の野菜を使った加工品の製造やインターネット販売も手がけている。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 農業大学の新規就農支援研修先で有機栽培の実践研修を受けた際、化学合成農薬・化学肥料不使用の農業に興味を持ち、就農後に実践。妻の亜衣さんは、野菜ソムリエ。

<契約・販売について>

- 生鮮野菜については、レストランへの契約販売や一般消費者へのインターネット販売。
- 加工所で製造した自家農産物の加工品（ドレッシング、ジャム、ピクルス等）については、主にインターネット販売。なお、平成30年7月にオープンした福岡市の直売店においても販売。
- 営業部長として、亜衣さんが新規販路開拓に取り組み、**年々、作付規模、販路を拡大**。本年3月からパート3名を雇用。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
線虫抑制効果のある緑肥を畑に播き、鋤込んでいる。
- 除草対策
初期生育段階において手押し中耕機による除草を実施。
- 土づくり
緑肥（エン麦）を畑に鋤込むほか、希に、鶏糞、牛糞、油かす、野菜くず等を混ぜて堆肥として利用。

<現状の課題>

- 生産から加工、販売において手作業の比率が高く、今後、作付規模及び販売量を増やすための労働力の確保と機械化が必要。

<今後の対応>

- 担い手としての支援を受けられるよう、合志市及び行政書士と相談しながら、今年中の経営法人化を目指している。
- 法人化後は、新規就農者を雇用して農業後継者の育成に努めるとともに、加工製造機械を導入して生産性の向上を図りたい。



【お問合せ先】TEL.096-242-7855 うさぎ農園（農場）

<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

<農場概要>

- 生産農家6軒で会社を設立。（正社員2名、パート2名）
- 経営面積（4ha）有機JAS認証取得（4ha）：ベビーリーフ（ルッコラ、水菜、ターサイ、ビート、レタス類）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 高冷地であり、もともと減農薬栽培が盛んな地域であったが、取引先から有機農業が有利販売に繋がると進められたことによる。
- **平成19年（2007年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 通年出荷を基本とし、栽培計画を立て、季節に合わせて品種を選定し、幼葉ならではのおいしさを提供。
- 契約栽培でインターネット等を活用しながら販路の確保に努めている。
- 熊本市内を基本に、全国のホテル、レストラン、スーパーへ出荷。



【お問合せ先】TEL.0967-72-9494

メール fxkyd892@yahoo.co.jp

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
太陽熱利用による土壌消毒を実施。（湛水後、農業用ビニールで被覆し、ハウス内を密閉）
- 土づくり
土着菌（放線菌）に着目した堆肥を使用。メンバーの中には、山野草を利用し、1～2年発酵させたものを使用している。

<苦労しているところ>

- 過去にはコンテナ出荷を行っていたが、現在は販売先に応じた小分けパッキングを行うため、出荷経費・輸送コストが増加している。販路の確保も課題。

<今後の対応>

- 構成員の高齢化により後継者の確保が課題。組織を法人化(2017年)し、構成員の栽培から法人直営の栽培に切り替えていくことを想定。



<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

<農場概要>

- 経営面積（4ha）うち有機 J A S 認証取得（3.2ha）
（にんじん、小カブ、ピーマン）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 東日本大震災のボランティア（炊きだし）で食べ物が手に入らない状況を経験し、自ら農産物を作りたいと思ったことがきっかけ。東京から有機農業が盛んな山都町へ移住。
- **平成26年（2014年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 生協との契約栽培が中心。関東、関西方面に出荷。
- 新規就農者同士の販路確保のため「ASO GAIRINZAN ORGNIC合同会社」を設立。（メンバー10名でリレー出荷することにより取引先との契約量を確保）
- メンバーで規格、品質等を統一するため、定期的に学習会を開催。



【お問合せ先】TEL.090-3547-1589

メール yaski525@gmail.com

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 雑草対策
人参は太陽熱養生処理（植付け前のマルチ被覆）により雑草を抑制。
- 土づくり
科学的分析により土壌状態を把握。状態にあわせた資材（馬糞、竹の粉、雑草等）の投入を行いながら土づくりを実践。

<苦勞しているところ>

- 今では、経営が確立しているので、苦勞はしていないが、新規就農当時は機械、設備への投資に苦勞した。

<今後の対応>

- 個人経営の規模を拡大するよりは、規模の小さな家族経営が参画し、共同で営農を行いながら、出荷グループを発展させていきたい。



有機農業の取組 No.24 株式会社 うきうき森田農場

令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：熊本県宇城市

(平成28年度環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞受賞)

<農場概要>

- 経営面積 5 haで、水稻、野菜類(約30品目)を栽培(米、生姜、里芋、にんにく、露地野菜)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和45年就農。当初は慣行栽培をしていたが、農薬の使用による身体面への負担を感じたこと。また、農薬の多投入や農産物の外観品質への評価に疑問を持ち始め、有機農業実践者に出会い昭和50年台始めから有機農業に取り組む。
- **平成13年(2001年)に有機JAS認証を取得**

<理念>

- いのち・くらし・環境を守る有機農業を推進し、子や孫、次世代につなぐ。

<販売について>

- 有機農産物と一目でわかるように、販売するすべての農産物に有機JAS、グリーン農業表示マーク(熊本県のグリーン農業制度)、自社ロゴマークを1枚のシールにして貼付し販売。
- JA系の直売所、くまもと有機の会(生産者主体の産直を行う組織)及び九州内の生協に出荷。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
作物の輪作で病虫害の発生を極力少なくする体系づくり。
太陽熱養生処理で土壌の病虫害殺菌処理。
- 雑草対策
黒マルチや太陽熱養生処理で、除草の労働力軽減。
- 土づくり
排水性を良くするため、3～5年おきに客土、深耕、転地返しを実施。
肥料は、有機JASに対応したボカシを使用。

<現場の課題>

- イノシシやシカの被害の増大
以前から、金網や電気柵を設置しているが、整備が間に合わない。

<今後の対応>

- 更なる有機農業の普及を図り有機農産物の安全供給と面的広がりを旨とするため、ネットワーク化、新規就農者の育成に取り組む。

- 地域の特産物である
「生姜」加工品の生産・販売を拡大する。



【お問合せ先】TEL.0964-43-0234

メール yuk_morita@kuc.biglobe.ne.jp

<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡御船町

<農場概要> 75ha(水稲、にんじん、ばれいしょ、など約100品目)

うち有機 J A S 認証30ha(水稲、にんじん、ばれいしょなど)、構成員50名

<理念> 自然と共に生きる丁寧な暮らしを ひとり一人が実践し、「有機農業生産者、加工者、流通事業者消費者が共に支え合い、自分自身、家族、友人、知人に食べて欲しいものを作り販売すること」をテーマにし、熊本の「有機の基地」をめざして日々の活動に取り組んでまいります。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和51年に有機農業生産者と消費者を結ぶ専門機関「株式会社熊本有機農産流通センター」を設立。その後、有機農業を広く伝える目的で昭和60年に本会が発足。

<有機 J A S 認証に取り組むきっかけ>

顔の见えない消費者へのアピールには第三者が認定した有機 J A S 認証が不可欠のため取得。

<主な販売先>

消費者への直接販売（季節の野菜セット）
・生協



【お問合せ先】TEL.096-281-7355

HP <https://kumamotoyukinokai.jimdo.com/>

直売所：オーガニックはあと（熊本市東区湖東2-1-3）

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 圃場ごとに土壌分析及び生産物の栄養成分分析を実施し圃場にあった土づくりにより、健全な作物の栽培（セルロースの強化）ができ、病害虫耐性も強くなる。また、「太陽熱養生処理」により土壌物理性の改善（土壌の団粒化・水はけ改善）、秀品率の向上、生物性の改善による病原菌抑制及び雑草の種を熱等で死滅させることで**除草作業を殆どしなくてよくなる。**

人参の慣行栽培では単収3.5トン、圃場にあった土づくりを実施した場合、単収6トン程の収穫でき、栄養成分では糖度が向上し、硝酸（エグミ）が減少しおいしい農産物が出来る。

<苦労しているところ>

- 異常気象による影響。
- イノシシ・シカ等による鳥獣被害。

<今後の対応>

- 10年後を見据えて生産量確保にむけ、新規就農者・転換者に対して研修会の開催。

<基本情報>

所在地：熊本県葦北郡芦北町田浦

<農場概要>

- 柑橘類 15ha（レモン、はるか、せとか、不知火、甘夏、津之輝（つのかがやき）等）
- 甘夏 50a で有機 J A S 認証取得

鶴田ご夫妻は農林水産省広報誌「aff」にも紹介されました。（2019年4月号より）⇒



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 明治33年（1900年）にレモンやネーブル、グレープフルーツなどの苗木を導入（当時では先進的農家）。
- 昭和50年（1975年）頃の甘夏の黄金期に、先代と現会長が、甘夏の食味が落ちたと感じたことをきっかけに、その原因を研究し、果樹栽培には微生物を意識した土づくりが重要と認識。減農薬・無化学肥料による果樹の持続可能な栽培方法に取り組み、平成6年（1994年）に会社設立。
- **平成15年（2003年）に「甘夏」で有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 有機 J A S 認証の甘夏（以下「有機甘夏」）の8割は（株）マルタ（全国展開の関連卸売流通会社）を通じWEB等で消費者へ、残り2割は消費者へ直接販売。販売価格は、認証品でない通常の甘夏の1～2割高くらい。
- 有機甘夏の味は各方面から好評で、**収量も認証品でないものと遜色ない。**
- 有機甘夏以外にも特別栽培農法で生産し、（株）マルタを通じ、消費者や大手スーパー、生協、学校給食向けに販売。



* 2019年6月のG20新潟農業大臣会合の場にも出展（紹介チラシ）⇒⇒⇒



【お問合せ先】TEL.0966-87-0061

会社ホームページ <http://tsurudayuukinouen.web.fc2.com/>

<鶴田有機農園の有機栽培>

- 有機栽培のポイント
有機栽培のポイントは“適期に作業を行なう”こと。常に天候など念頭において、樹にとっての最適な時期を見極め、雑草管理、施肥、剪定、摘果等の作業を行なうことが大切。
- 土づくり
微生物のバランスを整えることが重要。土の表面から20cmくらいまでを良い微生物に支配させると、作物全体のバランスを整えることができる。
魚カスや菜種カス等15種類以上の有機原料を発酵させた堆肥（（株）マルタ・グループが製造）を園地全体に散布している。
- 病害虫・雑草対策
圃場周辺に草花を生やしておくなど、病害虫の天敵が住みよい環境を確保することが重要。
雑草対策は、園地全体を見ながら適期の除草が必要。土が安定してくると樹に絡みつくような雑草がなくなる。

<現場の課題>

- 日本の有機栽培農家は、栽培技術的には十分にやっつけられるが、販売価格への転嫁ができず行き詰まっている。



<人材育成>

- 次世代を担う人材育成を目的に、平成9年（1997年）頃から研修生の受入れを開始。独立した修了生の中には、熊本県外から就農し甘夏栽培（有機 J A S 認証取得）を始めた農業者もある。

<今後の対応など>

- 今後は、レモン、はるか（柑橘）の有機 J A S 認証取得を計画。

<基本情報>

所在地：熊本県宇城市不知火町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 16ha (うち有機JAS認証13ha トマト、ショウガ、柑橘等)
- 2015年に自社加工所を設立し、トマト、ショウガ、柑橘等の加工品を生産(加工所は、有機JAS加工食品の認定取得)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 「農業は自然を守る産業であること」という信念のもと、有機栽培で自立できる農業を目指し、町内で有機農業に取り組んでいた澤村氏を中心に、2001年に柑橘農家4戸、野菜農家2戸の計6戸で設立。2003年に法人化。
- **平成10年(1998年)に有機JAS認証取得を開始し、現在、施設と露地の全ほ場にて有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売は、生協関係と量販店に約5割程度ずつ出荷。また、少量ではあるが、県内の直売所や自社オンラインショップでも販売。
- 都市圏へ空荷で帰るトラックに着目し、運送会社との提携により、帰り便を積極的に利用することで、効率的に出荷するとともに出荷コスト削減

<消費者への情報発信について>

- 年に1回、消費者等との交流を目的にほ場見学、農業体験ツアーを開催。
小売店と協力し、生産物に対するアンケートを実施し、消費者ニーズを把握。



【お問合せ先】TEL. 0964-33-7240

ホームページ：<http://higoayuminokai.co.jp/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
腐敗するような資材は投入せず、虫害発生が少ない時期に栽培。ハウス内は加湿状態としない等の環境負荷をかけない栽培を行うことで病虫害を抑制。また、タケノコや山菜等から抽出した天然エキスを使用する。
- 雑草対策
通路や畝の上にカヤやわらを敷くことにより、雑草発生を抑制。
- 土づくり
土壌バランスを重視し、野草堆肥及びボカシ肥料を施用。
野草堆肥は、2年程熟成。また、ボカシ肥料は米ぬかを中心に魚粉やカキ殻等加え、自社肥料製造施設で製造。
土壌分析に加え、野草堆肥とボカシ肥料の成分分析も毎年実施することで、土の状態を常に把握するよう努めている。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、販路拡大のため積極的に売り込んだがうまくいかなかった。その後の品質向上により自然と販路が拡大した。

<今後の展開>

- 主作物のトマトは、4～6月出荷を主な作型とし、塩トマトが収穫できる海岸地域は、11～5月出荷としている。
近年、高原地域(阿蘇)で夏秋栽培開始し、周年出荷を目指す。



<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

(令和3年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール九州農政局長賞受賞)

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場3.7ha
(にんじん、ばれいしょ、にんにく、たまねぎ等)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 有機農業を営む義父母から離農の相談を受けたことを機に、平成19年に就農を決意。
翌年、県立農大等で農業の基礎を学び、平成21年に有機農業2.1haを経営承継し、**同年(2009年)に有機JAS認証を取得**。現在、家族2名と従業員2名で多品目栽培に取り組んでいる。

<販売について>

- 平成23年(2011年)に、共同出荷によるコスト削減や安定的な出荷及び新たな販路確保を目指し、「山都町有機農産物出荷協議会」を代表として設立。平成25年(2013年)には同協議会と他社との事業統合を経て、平成28年(2016年)に山都町最大の有機農産物出荷プラットフォーム「(株)肥後やまと」(有機農業者48名で構成)の法人化に携わった。販売の一元化により、それぞれが実施していた荷造りや出荷作業を一か所に集約化したことで、労働時間の大幅な削減や流通コストの削減を実現。また、出荷品目が増えたことが強みとなり、個人やレストラン等への新たな販売先の確保に繋がった。なお、生産量の約半分は、(株)肥後やまとを通して出荷しているが、残りは個人で出荷している。
- 山都町有機農産物のブランド化を図るため、共通デザインシールを導入し、積極的にPR。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
鳥獣被害軽減のため、休耕期間を設けないよう輪作体系を実施。
- 雑草対策
雑草防止対策は、従来の適期耕耘管理や中耕除草に加え、太陽熱養生処理、畝間マルチを実施。
- 土づくり
地域の畜産堆肥、米ぬか、籾殻、薫炭、落ち葉等をブレンドした自家調製のバイオ堆肥や緑肥を施用。
土壌分析結果に基づき、施肥設計ソフトを活用し、施肥を実施。

<ICT(情報通信技術)等の活用>

- 有機JAS認証ほ場の栽培計画、管理記録は、審査時にいつでも確認可能となるようクラウド上で管理。
- 農機具保管庫は、通信型の防犯カメラを設置。

<情報発信等について>

- 消費者とのコミュニケーションをとり、互いの顔が見える販売とするため、インターネット販売の全てに手紙を添えている。
- SNSを活用し、有機農業の日々の作業等を発信し、交流を深めている。



【お問合せ先】TEL. 080-5375-2480

フェイスブック: <https://ja-jp.facebook.com/koshi.nishiyama.5>

<基本情報>

所在地：熊本県山鹿市鹿本町

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場58a（イチゴ（うち育苗床13a））
- **平成29年（2017年）に有機 J A S 認証を取得**



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大学卒業後、海外青年協力隊を経て J I C A に就職し、支援活動を通して海外における有機農産物への意識の高さを実感。
また、子育てのコミュニティを通して、食の安全安心の大切さを強く意識するようになり、40歳で就農を決意。
海外生活では生のイチゴを食べる機会が無かった子供達の「イチゴが食べたい。」の一言でイチゴの有機栽培を目指す。

<販売について>

- 大手スーパー系列の有機農産物ショップを中心に、ネット販売や生協等へ販売。
なお、有機農産物ショップとは出荷時期を通して同じ単価で契約し、通常の販売と比べて高単価を実現。
- 令和3年（2021）から海外（アジア）へ輸出。
- 無添加ジャムやスパークリングワイン、冷凍イチゴなどの加工品開発により出荷口の削減と有機イチゴの P R を実施。



<消費者等への情報発信について>

- ホームページや「農産物直販サイト」を活用して、消費者との情報交換を実施。
- 有機農業を志す研修生を受け入れ、次世代の農業者を積極的に支援。



【お問合せ先】 TEL. 050-1303-4066
ホームページ：http://itofarm.org/

<病害虫対策・土づくりなど>

- 病害虫対策
捕殺に加え、防虫ネットや白マルチの反射利用による害虫の侵入抑制対策（物理的防除）、チリカブリダニやコレマンアブラバチなどの天敵導入及び B T 剤やフェロモン剤利用（生物的防除）等を組み合わせ病害虫発生を抑制。



- 土づくり
阿蘇地域に自生するカヤ（野草）を敷き藁としてほ場の畝間に施用。
栽培終了後にすき込み、太陽熱養生処理を行い土壌構造を改善。
- 効率的な生産に適した品種への転換
果形が大粒で果皮が硬い品種「恋みのり」に転換したことで、パック詰めでの労力削減と輸送性が向上。

<経営の課題>

- 更なる収量の増加を目指し、栽培技術を向上。
- より簡易的な有機栽培方法の確立・体系化及び雇用者の確保。

<今後の展開>

- まだ認知度の低いイチゴ有機栽培を広め、栽培の裾野を広げていきたい。また、年齢・能力・性別を問わず多くの人々が活躍できる農園を作ること、農業の魅力を広め、地域農業に貢献していきたい。

<基本情報>

所在地：大分県宇佐市

<農場概要>

- 野菜3.3ha、全て有機 J A S 認証を取得
- 「口にも体にもおいしい野菜が当たり前の世の中」を目指して年間約40品目の野菜を栽培



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 人が野菜を育てる「人」メインの考え方でなく、「野菜」自体が健康に生育する環境を人が整えるという「野菜(と自然)」を主体に物事を考え、35年前から有機農業に取り組む。
- **平成14年(2002年)に前身である「佐藤農園」として有機 J A S 認証を取得、平成25年(2015年)の法人化に伴い「さとう有機農園株式会社」として再取得。**

<販売について>

- 販売する全商品が有機 J A S 認証品。食の安全・安心が求められる時代の流れとともに販売量が増加。
- 有機栽培は特別な栽培でないと認識。生産性を上げることで**消費者が当たり前にとってもらえる価格設定**に努める。
- 関東、関西、名古屋の卸売業者、生協を中心に、百貨店、セレクトショップに販売。最近では業務用・加工用としてレストランなどにも販売。



【お問合せ先】TEL.0978-32-0734

会社ホームページ <http://www.satoyuki-nouen.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
自然環境に基づいた栽培環境を整えることで野菜本来の抵抗性を発揮させる無農薬栽培を実現。
農薬は有機 J A S 指定資材も含め一切使用せず、太陽熱消毒や人の手による捕殺で対応。
- 雑草対策
気候に応じた作物を栽培することで出来るだけ除草の手間を省く。草の発芽前に特注の草かきで「土を動かす」ことでより生えにくくする。
- 土づくり
植物由来のボカシ(大豆、米ぬか等)を中心に土づくり。
落ち葉を使用した踏み込み温床による育苗。

<苦労しているところ・現場の課題>

- 従業員の確保。パートではなく責任ある仕事を任せる正社員を雇用したい。

<今後の対応>

- 近隣で有機農業に取り組む農業者が、お互いに作物を分担し栽培することで安定供給が可能となる。そのような仲間を増やして連携・共存することで有機農業全体の発展につなげたい。



<基本情報>

所在地：大分県宇佐市

<農場概要>

- 水稲10ha（すべて有機栽培。うち2haで有機JAS認証を取得）
- 世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域の豊かな環境を保全するために、環境に負荷をかけない自然に沿った米作りに取り組んでいる。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 先代が有機農業を手がけていた頃、台風で周囲の慣行栽培の稲は皆倒伏したが、有機栽培の稲は被害はなかった事など有機栽培の特質を見聞きし、有機農業に関心を持った。
有機栽培での販売価格等について、将来を見据えて試算、経営が成り立つことを確信し、平成15年に就農。
- **平成20年（2008年）有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売する商品は、農薬・肥料を使用しない自然農法で栽培したお米を『しあわせ米』として販売。
- 販売先は、会員を中心に、オーガニックEXPO等のイベントでのマッチング（人脈形成等）を通じて、レストラン等へも販売。
- 販売価格は、**圃場の有機栽培経過年数に応じて差をつけている。**



【お問合せ先】TEL.0978-33-3265
会社ホームページ <https://siawasemai.com>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
有機圃場には天敵となる昆虫や微生物がいるためか、ウンカやいもち病などは圃場には入って来ない。
- 雑草対策
「あめんぼ号」（水田除草機）で田植え後1週間ごとに3回除草。
- 土づくり
稲藁や自然の堆肥を使用、土を清浄化することを心がけている。

<苦労しているところ>

- 圃場が粘土質のため固く、耕起の時期と方法に苦労する。
- 有機栽培の規模拡大により慣行栽培から転換した圃場は作土が浅く、深耕等で有機栽培に適した圃場にするのに苦労する。

<現場の課題>

- 販路の確保。地域のJAは有機農業への関心が薄いこともあり、乾燥調製から販売まで自社で行っている。

<今後の展望>

- 水稲作付面積を12haまで拡大したい。
- 将来的には地域の50haの圃場を、若手3～4人で有機栽培に取り組むことも検討したい。



<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- 野菜 7.8 ha、有機 J A S 認証を取得
- サラダ系野菜を中心に年間約 30 品目を生産



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 平成24年（2012年）に総合健康企業フォレストグループの一員として設立。「食」を介した健康への貢献を目指し、作物が持つ本来の味を引き出し、安全・安心な旬の野菜を消費者に届けるべく有機栽培のみに取り組んでいる。
- **平成26年（2014年）に有機 J A S 認証を取得。**
- **平成29年（2017年）に有機 J A S 小分け認証を取得。**

<販売について>

- 販売先は個人向けの定期宅配（全国）や臼杵市のふるさと納税返礼品のほか、デパート・大手量販店や個人経営のレストラン等にも拡大。また、商社を通じた海外輸出への取組も開始。
- ohana本舗が中心となり、**県内の有機農業者と共同出荷グループを構築**。システムを導入し生産出荷計画も一元的に管理出来る体制とし、大口需要や顧客ニーズに対応。
- 食品としての更なる安全性を追求し J G A P も取得。



【お問合せ先】TEL.0974-24-3210

会社ホームページ <https://www.ohana-honpo.com/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
植物そのものが力をつける事が大事と考え育苗に力を入れている。育苗時の散水量を控え、土壌水分量を抑えることで強い苗に育っている。
- 雑草対策
耕起を繰り返して雑草の根を絶やす、加えて植え付け前の圃場では防草シート等により発生を抑制するなど、事前の作業を徹底。
- 土づくり
有機の里づくりを推進する臼杵市が開設した土づくりセンターで製造している完熟堆肥「うすき夢堆肥」を設立当初から使用。有機肥料による豊かな土壌づくりに取り組んでいる。

<苦労しているところ>

- 多品目栽培のための工程管理。効率的な作業、安定した出荷となるよう随時見直しを重ねている。

<現場の課題>

- 有機や特別栽培、慣行等の種々の農法があるが、生産方法の違いや定義が消費者に伝わっておらず付価値をつけた価格での販売につながっていない。有機農業発展の為には消費者への更なるアピールが必要。

<今後の対応>

- 共同出荷グループの強化に取り組み、大口販路拡大と経営安定、若手有機農業者の育成・定着に寄与する。



<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- かぼす：4ha
(有機JAS認証：3ha、転換中：1ha)
- 日本で唯一有機JAS認証のかぼす農園



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 平成22年(2010年)、勤務していたかぼす農園の廃業に伴い、農園を引く継ぐ形で会社を設立。会社設立を機に差別化を図るため有機栽培に取り組む。
- **平成23年(2011年)に有機JAS認証(有機農産物)を取得。**
- **平成30年(2018年)に有機JAS認証(有機加工食品)を取得。**

<販売について>

- 青果と果汁を卸売業者、インターネット通販、グリーンコープなどに販売。
- 果汁は、自社で搾汁・ボトルリングし、有機かぼす果汁100%として販売。
- 近年、家庭用の加工用原料として、規格外品の販売を開始。



【お問合せ先】TEL.097-578-1600

会社ホームページ <https://kabosu0974.jimdo.com/>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土を健康にして、樹を健康に育てることが基本。樹の自己免疫機能を高め病虫害に強い樹にすることを大切にしている。
- 雑草対策
刈払い機と乗用草刈り機で年3回程度行う。地面が見えるまで刈らずある程度の高さを残すことで、草が夜露を集め土壌の保湿効果がある。
- 土づくり
特別な土づくりは行っていないが、刈取った雑草をその場に残すことで分解し肥料となる。その土地の雑草を肥料にするのが最も良い。

<苦労しているところ>

- 有機栽培ゆえに人件費がかかる。草刈りにしても作業に何日もかけることで、当然人件費がかかる。

<現場の課題>

- 現状の規模をいかに維持していくかが課題。

<今後の対応>

- 新たな販路として輸出を検討中。青果をEU(フランス)へ、果汁を台湾へ。



<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- 茶 4.5ha、全て有機 J A S 認証を取得（他に転換中ほ場1.4ha）
- 生産から製造・加工・販売までの一貫経営を確立



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 30年程前、先代が茶畑に農薬散布中、ホースがはずれ全身に農薬をかぶってしまい、体調を崩したことをきっかけに農薬を使わない有機茶栽培を開始。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得(大分県第1号)**

<販売について>

- 自社工場、インターネットでの販売に加え、消費者に直接販売できるように地元デパートに直営店を設置。
- 平成19年から香港やアジア圏に向け輸出を試行したが、オーガニックの認知度が低い等、継続的な取引に至らなかった。
- オーガニック志向がより高い欧州へ販路を変更し、平成27年からドイツへ、現在はフランスに輸出している。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
 - ・ 夏場に多発する炭疽病やハダニ等の対策として、二番茶収穫後に深刈りをして古い葉を落とし樹の若返りを図っている。
 - ・ 農薬は有機JASで認められているものであっても、使用せず強いこだわりを持って無農薬栽培を実践している。
- 雑草対策
有機栽培では雑草処理が一番大変であり（特に幼木の頃）、地域のシルバー人材センターに除草作業を定期的に委託している。
- 土づくり
独自のノウハウで配合した油かすや魚粉かすなどの有機質肥料は分解が遅いため、成分が効いて欲しい時期に最大限の効果が出るように施肥のタイミングに気をつけ、早めの施肥を心がけている。

<苦労していること>

- 離農する農家から茶園等を引き受けるなど規模拡大を進めたいが、有機性を確保できるほ場がなかなか見つからない状況。

<現場の課題>

- 出荷先からJGAP認証取得の条件が出されたので、今年度中に取得予定。

<今後の対応>

- 主力商品である有機緑茶に加え紅茶やGABA茶、ゆずやかぼすを緑茶に配合したフレーバー茶など特色のある商品や、輸出も視野に**てん茶の加工機械を導入し有機抹茶など国内外へ展開**していきたい。

【お問合せ先】TEL. 0974-32-4219

会社ホームページ <http://www.tkhs-cha.com/>

<基本情報>

所在地：大分県豊後大野市

<農場概要> 全ての圃場で有機農業を実践

- 水稻1.5ha、麦・大豆0.6ha・・・有機JAS認証を取得
- 野菜0.8ha(約30品目)、かぼす0.3ha



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 高校時代に自然農法の本に出会い、大学は農学部へ。卒業後、青年海外協力隊員としてタンザニアで稲の試験栽培に従事。帰国後、物の多さに疑問を持ち静岡県で有機農業を始めたが、更に豊かな自然環境を求め平成9年に豊後大野市に入植。
- **平成19年(2007年)に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 近隣の有機農業者5名で「むぎわらぼうし」(任意組織)を設立。
販路拡大、供給量の確保、宅配に対応。
- 道の駅等での委託販売。
- 加工品(かぼす果汁、黒米、黒米入りあまざけ等)のインターネット販売。



手押し除草機

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
水稻は、みのる式のポット成苗システムにより、稲の能力を最大限引き出す。
野菜は、入植当初は全滅することもあったが、徐々に圃場の生態系バランスが良くなり、5年～10年で病虫害のない土壌環境ができてきた。
- 雑草対策
合鴨農法
あめんぼ号(水田株間除草機)
手押し除草機
圃場内の雑草を草マルチとして利用
- 土づくり
米ぬか、おから、油かす、落葉や畦草を堆肥化しボカシ肥料として施用。



あめんぼ号

<苦労しているところ>

- 自然相手なので、病害虫・除草対策と土づくりは永遠のテーマ。
- 除草対策の合鴨が鳶(トビ)による被害を受けている。
- 圃場が分散しているので、農作業や見回り等の手間が掛かる。

<現場の課題>

- 経営面積拡大のためには、新規、大口の販売先を確保する必要がある。

<今後の対応>

- 徐々に経営面積を拡大していきたい。
(好条件の圃場が確保できるかがカギ)



【お問合せ先】

TEL・Fax 0974-42-3501

E-mail ujamaa-farm@d8.dion.ne.jp

有機農業の取組 No.36 小松台農園（竹林諭一・竹林千尋）

令和3年2月現在

＜基本情報＞

所在地：大分県由布市

＜農場概要＞

- 野菜：1.9 ha
（有機JAS認証：1.5 ha、転換中：0.4 ha）
- フェンネル、白ネギほか多品目を生産



＜有機農業に取り組むきっかけ＞

- 竹林諭一氏は東京都の食品スーパーに勤務していたが、販売されていているものと自らが食べたいものは違うと考えるようになり就農を決意。
- 結婚・帰郷し、農家研修等を重ねる中で有機農法に出会い、平成26年（2014年）から現在の地に有機農業を始める。人にも野菜にも無理のない持続可能な循環型農業を実践している。
- **平成29年（2017年）に有機JAS認証（有機農産物）を取得。**

＜販売について＞

- 県内外の小売店や流通事業者のほか、インストア型の直売コーナー、インターネット等で販売。



【お問合せ先】TEL.097-582-1824

会社ホームページ <https://komatsudai-farm.jimdosite.com>

＜病害虫対策・除草対策・土づくり＞

- 病害虫対策
緑肥を取り入れた輪作、牡蠣殻、ぼかし、良質な牛糞堆肥等を入れた土づくりを行うことで病害虫の発生を抑えるように努めている。
- 雑草対策
適期作業！！この一言に尽きる。生える前に取る！！
- 土づくり
病害虫対策と同じで、緑肥や牡蠣殻、ぼかし、良質な牛糞堆肥などを使って、極力、土に色々な微生物がいるような土づくりをしている。

＜苦労している（した）ところ＞

- 数十年前に梨園地として整備されたものの耕作放棄地となっていた農地を借り受け、自ら開墾し生産面積を拡大してきた。

＜今後の対応＞

- 地域資源の循環を軸にした持続可能な農業を目指し、真珠養殖後に廃棄されるアコヤガイの貝殻や粉末にした海藻を肥料として利用するSDGsの取組を始めており、続けていきたい。



<基本情報>

所在地：大分県宇佐市安心院町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場14.75ha（ハウス3.45ha、露地11.3ha）
- ベビーリーフ、パクチー、リーフレタス、その他葉物野菜を生産
- 従業員：15名（代表含む社員3名、技能実習生4名、パート8名（増減有））



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 東日本大震災の影響により、有機ベビーリーフが不足していたため、ベビーリーフを栽培している茨城県の有機農業法人が技術提供する形で福岡県の有機農産物販売会社との共同で当社を設立。
- **平成26年（2014年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売先の8割近くは、スーパー等小売店向け（ほぼ関東へ出荷。一部大分県内へ出荷）。約2割程度は、仲卸へ販売（主に福岡県）。
- 令和2年当初は、コロナ渦により一時的に売上が落ち込んだが、その後、コロナ渦の巣ごもり需要により、売上が順調に回復し、今年は、前年と比較して売上が伸びた。
また、販売先のニーズに応じて商品構成の見直し（内容量を細分化）等を行ったことが売上増に貢献した。

株式会社 安心院オーガニックファーム



【お問合せ先】TEL. 0978-58-3606

ホームページ：https://ja-jp.facebook.com/ajimuof/

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
ベビーリーフは播種から収穫まで2週間程度（春～秋）と作期が短く、病害虫被害のリスクは少ない。パクチーは、作期が45日～60日程度（春～秋）のためアブラムシ等の虫の被害はある。
- 雑草対策
ほ場周辺は、全て草刈り機で除草。ハウス内は太陽熱処理や手刈りで雑草を除去する。露地の雑草は、耕耘作業及び草刈機等で除草する。
- 土づくり
赤土（粘土質）のため、成熟した土壌となるには時間がかかる。市内の酒造メーカーから焼酎粕を譲り受け、おからや米ぬか、牛ふん、鶏ふんを混ぜた堆肥（植物性原料主体）を自社で製造し、使用。

<苦労しているところ>

- 当初は、土壌が赤土で硬く、礫が多いため、耕耘作業が困難で、大きな石は手で拾いつつ作業を行った。



<今後の展開>

- 約100棟のハウスのうち令和元年竣工のハウスは、有機JAS取得済みであるものの、土壌が成熟しておらず、平成26年に竣工したハウスに比べ収量が劣るため、生産安定が当面の目標。